

活動成果報告書

令和4年度（第26回）「チョダ地域保健推進賞」

活動テーマ

地域で取り組む熱中症予防について

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

大和市役所 健康福祉部 健康づくり推進課

代表者：林 有希

勤務先：大和市役所

所 属：健康福祉部 健康づくり推進課

所在地：〒242-8601

神奈川県大和市鶴間1-31-7

TEL：046-260-5663

FAX：046-260-1156



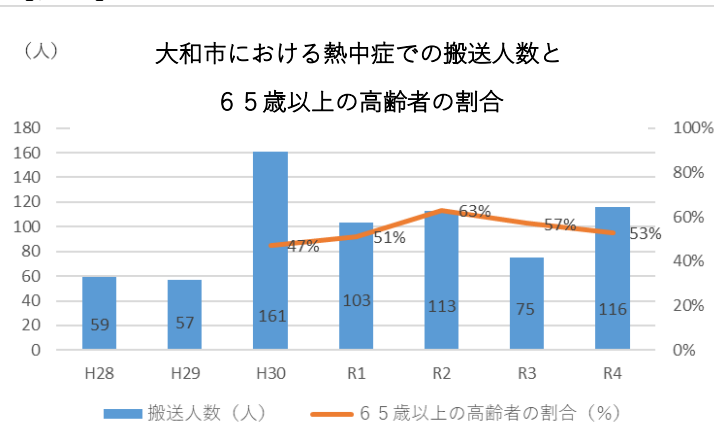
◇活動方針

大和市は、神奈川県県央部に位置し、人口約24万人、世帯数約11万人、高齢化率23.85%の都市である。人口と世帯数は微増しているが、1世帯当たりの構成人数は減少しており、単身世帯が増加していると考えられる。また、高齢化率は全国と比較すると低いものの、本市においても今後高齢化率の上昇、特に75歳以上の後期高齢者数の大幅な増加が見込まれる。

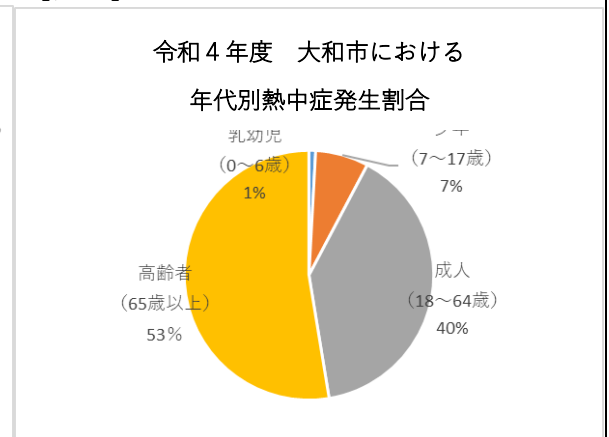
近年、気候変動に伴う夏季の気温の上昇や、熱中症リスクの高い高齢者人口の増加に関連して、熱中症での死亡者数が全国的に増加傾向であり、熱中症予防の重要性が高まっている。

本市の熱中症の状況を見ると、救急搬送件数については、年によって増減はあるものの平成28年度と比較すると増加傾向にあり、年代別の熱中症発生割合をみると、65歳以上の高齢者の占める割合が半数を超えている（図1、図2参照）。

【図1】



【図2】

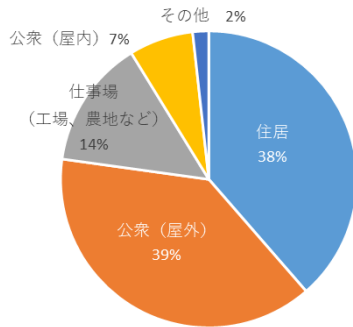


活動成果報告書

また、熱中症の発生場所としては、住居、屋外が同じ割合で多くなっており（図3参照）、とくに住居で発生した熱中症については、高齢者の割合が7割を占めている（図4参照）。屋外における熱中症予防だけでなく、住居で熱中症予防の啓発や地域での見守りが必要と考える。

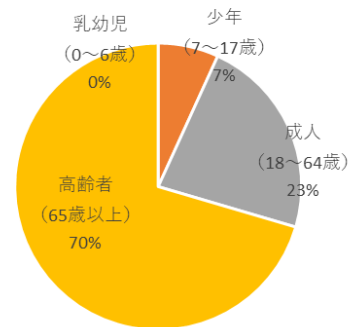
【図3】

令和4年度大和市における熱中症発生場所まとめ



【図4】

住居での熱中症発生年代別割合



そこで、本市では、熱中症予防についての啓発を、とくに65歳以上の高齢者に対して重点的に行うため、地域の力を活用し、積極的に普及啓発を行っているため、その取り組みについて報告する。

◇活動内容とその成果

【活動内容】

<市民全体への周知>

市民全体への周知として、乳幼児から高齢者まで、無関心層にも届くよう、働きかけを行っている。

具体的には以下のとおり。

- ・市のホームページトップに熱中症予防について表示（図5参照）
- ・ポスターを作成し、公共施設や商業施設、市内PRボード、保育園や小中学校へ掲示（図6参照）
- ・熱中症警戒アラート発令時の防災無線による注意喚起
- ・熱中症警戒アラート発令時、庁内放送での呼びかけや、高齢者や子どもの利用が多い保健福祉センターの窓口にサインを表示（図7参照）、市内保育園や小中学校への周知。
- ・市の広報誌「広報やまと」全戸配布されている「やまとニュース」への記事掲載
- ・ごみ収集車巡回中に熱中症予防についての放送
- ・ラジオ局「FMやまと」の番組に出演し呼びかけ
- ・市公式アカウントおよび市イベントキャラクターによるTwitter、LINEでの注意喚起
- ・市のイベント等でのリーフレット配布

令和4年度は、例年になく暑さで6月下旬から高温となり、コロナ禍でのマスク着用による熱中症のリスクが高まることから、「屋外ではマスクを外すこと」「エアコンをためらわずに使うこと」の周知を重点的に行った。

【図5】ホームページトップの表示



【図6】啓発ポスター



【図7】保健福祉センター窓口サイン



活動成果報告書

<地域での周知>

高齢者は熱中症のリスクが高いとされるが、特に独居の方など社会とのつながりが希薄な方に救急搬送されるケースが多いとのこともあり、地域での見守りが高齢者の熱中症予防につながることを考え、民生委員児童委員（以下「民生委員」という）、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という）、老人クラブの協力も得ながら、地区で熱中症予防の見守りができるよう努めている。また、地域で健康づくりの活動を行っている健康普及員に対しても、熱中症予防について地区での啓発を依頼している。具体的には以下の通り。

- ・民生委員児童委員協議会（以下「民児協」という）や地区社協の定例会に出向き、熱中症予防の普及啓発と、熱中症リスクが高い高齢者や子どもの見守りを依頼。各老人クラブへリーフレットを配布。
- ・健康普及員に対し、ウォーキング活動の注意点に熱中症対策を盛り込み、健康普及員が参加者の熱中症予防に気を配れるようにした。
- ・高齢者の通いの場であるサロン等において、熱中症予防についての健康教育（R4年度 37回 延べ752）を実施。

【活動成果】

- ・民児協や地区社協の定例会では、「屋外イベントでのマスク着用について」や「熱中症アラートの把握方法」などの質問が出て、熱中症予防への関心の高さがうかがえた。
- ・民児協および地区社協の定例会においては、地域の高齢者向けに配布するリーフレットを用意し見守り依頼をしているが、民生委員、地区社協のボランティアから、積極的に周知する声があがり、地域での見守り、普及啓発の協力を得られている。令和4年度は民生委員、地区社協のボランティアに対し約3,000人分のリーフレットを配布した。
- ・健康普及員は、参加者に熱中症予防のリーフレットを配布したり、ウォーキングイベントで、適宜休憩や水分補給を促したりするなどの様子が見られ、参加者の熱中症予防へ意識を向けることができていた。



リーフレットを民児協の定例会で配布。各地区で熱中症についての注意点を話させていただき、地区の見守り依頼をしました。

◇今後の計画

高齢者の中でも、特に身体的不自由がある方や独居の方に熱中症リスクが高くなるということから、フレイル予防や社会的孤立を防ぐことが熱中症予防につながるということをもまえ、熱中症予防における地域での見守りは大変重要である。本市では、日常生活圏域の11地区に、民生委員、地区社協、健康普及員がほぼ同様に地区割され、熱中症対策以外での保健活動においても日ごろから協力を得ており、これらの地域の力を活用することで熱中症リスクの高い高齢者に直接働きかけることができ、効果的に熱中症予防ができると考える。今後も、引き続き地区の組織に熱中症リスクの高い高齢者の見守りができるように働きかけ、その年に合った内容を随時取り入れながら、より注意深く見守りができるようにしていきたい。そして、地域全体の熱中症予防につなげていきたい。